



地域福祉活動拠点整備事業 推進ガイドライン

(ふれあい・いきいきサロン事業)

地域福祉活動拠点整備事業

(ふれあい・いきいきサロン事業)



子どもから高齢者までの
身近で集い、出会い、交流し、活動する場

地域住民が主体となって運営
… サロン、カフェ、通いの場等

場づくりを推進するための新たな事業

地域福祉活動拠点整備事業

(ふれあい・いきいきサロン事業)



「通いの場」・・・ 住民同士が**気軽に集い**

ふれあいを通じて 「生きがいづくり」
「仲間づくり」の輪を広げる活動

思いやりの気持ちを活かすもの



地域福祉活動拠点整備事業

(ふれあい・いきいきサロン事業)



▶「日常的に」

月2回、週1回程度の外出する機会とし、頭と身体を動かし、介護予防につなげる。

▶「身近な地域で」

町会、常会単位で、歩いて行けて、閉じこもり防止や安否確認につなげる。

▶「地域でふれあう」

新しい仲間ができ、助け合いにつなげたり、子育てなどの悩みの解消につなげる。

地域福祉活動拠点整備事業

(ふれあい・いきいきサロン事業)



～なにか地域のためにできることはないか～
その気持ちを、**自由な発想と活動**で
参加者がやりたいことを楽しむ「通いの場」を
仲間とともにつくっていく

例えば

楽しい「おしゃべり」

若々しく「身体を動かす」

「創作活動」で形に残す

夢中に「レクリエーション」

おいしく「食事会」

「ミニ講座」で学ぶ

一緒に「子育て」

地域福祉活動拠点整備事業

(ふれあい・いきいきサロン事業)



～なにか地域のためにできることはないか～
その気持ちを、**自由な発想と活動**で
参加者がやりたいことを楽しむ「通いの場」を
仲間とともにつくっていく

例えば

楽しい「おしゃべり」

若々しく「身体を動かす」

「創作活動」で形に残す

夢中に「レクリエーション」

おいしく「食事会」

「ミニ講座」で学ぶ

一緒に「子育て」

「通いの場」づくり



「無理なく」、「みんなで」、「いつまでも」

を合言葉に

身近な地域の人たちが集まって

楽しくしゃべって 笑い合い

困ったときには助け合い

お互いを気に掛ける場所

「まずは始めてみましょう！」



場づくりの流れ



▶ 「通いの場」の情報収集

既に実践している人から教わる、 情報収集

▶ 仲間を集める

友達、地域の仲間、民生委員、町会などへ
気軽に参加を呼びかけ

気心の知れている人、 お世話好きな人
地域の盛り上げ役、 相談役や見守り役

場づくりの流れ



▶ みんなで話し合い

どんな「通いの場」にしていくのか、話し合い

定期的に集まりおしゃべり + 体操 +
季節のイベント + 食事作り・会食

みんなが「参加者」であり、「運営者」

やりたいことの提案、得意な分野で教える



場づくりの流れ



▶ 集まる場所を決める

誰でも気軽に、安心して集まれる場所を探す

地域の集会所や公民館

個人宅や地域のお寺

公的な施設

空き家や空き店舗

▶ 集まりやすい日(開催日)を決める

定期的な開催で生活のリズムの一部



場づくりの流れ

▶ 参加料を決める

・会場使用料 ・お茶やお菓子 ・事務用品など
お金が必要になります。

飲食費、活動のための原材料などの実費
会費や参加費で負担する例
(有償の食品提供は臨時出店届が必要)

松本市の交付金制度、
松本市社協の地域福祉活動支援制度 など活用



場づくりの流れ

- ▶ できることを 「無理なく」
「みんなで」
「いつまでも」

一人が頑張り過ぎず、上手に役割分担

みんなが主役で、みんなが裏方
みんなの声を聞き、

集まった仲間たちも一緒になって楽しむ

事業の推進



▶ 事業の推進

* 事業の周知・協力依頼

町会連合会、地区社協(支会)、民児協
地域づくりセンター等へ事業の周知・協力依頼

* 説明会等の提案

地区内(町会単位)での説明・提案

* 人材掘り起し

地区担当職員と地区生活支援員が連携
企画の段階から地域(住民)と協働

社協の支援



事業推進のための支援を実施

- ▶ 取組み事例・過程等の情報提供、実践者紹介
- ▶ 実践希望者などからの相談、アドバイス
- ▶ 地域内協力者の掘り起しなどのコーディネート
- ▶ 地域福祉活動推進支援事業による財政支援と活用アドバイス
- ▶ 「通いの家」の情報提供と運営相談
- ▶ 交流会（情報交換）の開催

実施時期



▶ 実施時期

見直し後の「地域福祉活動推進支援事業」
実施時期に合わせて、令和2年4月実施

令和元年度から地域福祉推進会議での周知
徹底や、各種団体等へ説明・協力依頼

